

国立大学法人豊橋技術科学大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

豊橋技術科学大学は、技術科学に関する教育と研究を通して社会に貢献することを使命とし、主に高等専門学校卒業生を受け入れ、豊かな人間性と国際的視野を持つ実践的・創造的かつ指導的技術者を養成するとともに、国際競争力のある先端技術の開発研究を推進し、我が国の社会、特に産業界の活力の創出に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、大学入学者の大半を占める高等専門学校卒業生の教育の強化のため大学院教育に重点を置き、レベルの高い基礎科学・教養教育とその上に立った実践的専門・技術教育を交互に進める「らせん型」教育を学部・大学院一貫で実施すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、企業的センスを身に付けた真のリーダーを育てるため、企業経営者から直接学ぶ機会を設けるなど大学独自の「テラーメイド・バトンゾーン教育プログラム」のカリキュラムとして、異分野融合特論、バトンゾーン特論、開発リーダー特論を開講しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学的な技術支援を行うため、教員と技術専門職員で構成する技術支援室を新設し、組織的な技術支援を行える体制を構築するとともに、技術支援室会議及び技術支援部会を毎月開催し、室の運営、技術支援の在り方等について検討・検証を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の安定的確保、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6 %以上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、法令遵守)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学の室等の利用状況について分析・検討を行った結果、学生実験棟 2 階に大講義室及び地域防災研究拠点としての施設と部屋を確保するなど、全学的視点に立ったスペースマネジメントによるスペースの活用を行っている。
- 政府調達に係る入札手続きについて、入札参加業者からの苦情申し立てによる政府調達苦情検討委員会の審議結果を踏まえ、改めて調達を行うことにしていることについては、再発防止に努めることが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 26 年度からのカリキュラム改定に向けて、リベラルアーツ教育の見直しの検討を開始し、英語に関して、TOEIC IP 試験の平成 22、23 年度のスコアデータを分析し、早期からの語彙力強化プログラム導入の必要性を確認し、平成 24 年度から、学部 1、2 年次の授業において、e-learning による語彙力強化を進めることや、4 年次の学習目的別クラス編成を実施することを決定している。
- ティーチング・アシスタント (TA) に関する学部 1、2 年次生のアンケート調査の結果に基づき、要望のあった化学担当 TA を学習サポートルームに新たに配置するとともに、開講曜日及び実施場所を変更して実施した結果、相談件数が増加（平成 22 年度 17 件、平成 23 年度 35 件）している。
- 卓越した技術科学者養成プログラムの新たな規程の制定や関連する規程の改正を行い、学部入学から大学院博士後期課程修了までの各種学生支援プログラムを一貫性連続性のある「卓越した技術科学者養成プログラム」と総括して定義づけ、支援体制を充実している。
- エレクトロニクス基盤技術分野と先端的应用分野との新たな融合研究を実施する「エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS)」において、テニュアトラック制度により雇用した国内外の若手教員による研究活動を推進するとともに、所属教員による「アジア太平洋異分野融合研究国際会議」やテニュアトラック教員による「テニュアトラックプログラムシンポジウム」を開催して研究成果を積極的に発信している。
- コーディネーターが研究室を訪問し、教員とともに発明の把握を行うことにより、特許出願に関する効率的な支援を行っている。
- 「安全安心地域共創リサーチセンター」を設置し、地域の行政、産業界、市民とともに地域リスクの低減に向けた取組を実施できる体制を構築している。
- 国際戦略（第 1 版）（案）に留学生数増加に向けた行動計画を明記するとともに、インドネシア・スラバヤ電子工学ポリテクニク教育高度化計画への支援協力、独立行政法人国際協力機構 (JICA) アフガニスタン長期研修員の受入れ等、外国政府機関等の奨学金制度の活用による留学生数増加への取組を行っている。

III. 東日本大震災への対応

- 津波で被災した宮城県気仙沼市の文化財再建の支援として、教員が文化財の製図作業を行っている。
- 被災した学生に対し、入学料、授業料の免除等の経済的支援を行っている。